

(1) 大分類別の漂着ごみの状況

1) 漂着ごみの個数 (個/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m²あたりの個数 (個/m²) は、表 3-1-2、図 3-1-3 に示すとおりである。なお、個数には破片状のものはふくまれていない。

漂着ごみの個数が最も多かった地点は、漂着7 (船越海岸) で、個数は 7.34 個/m²、次いで漂着4 (高野川海岸) が 4.66 個/m²であった。

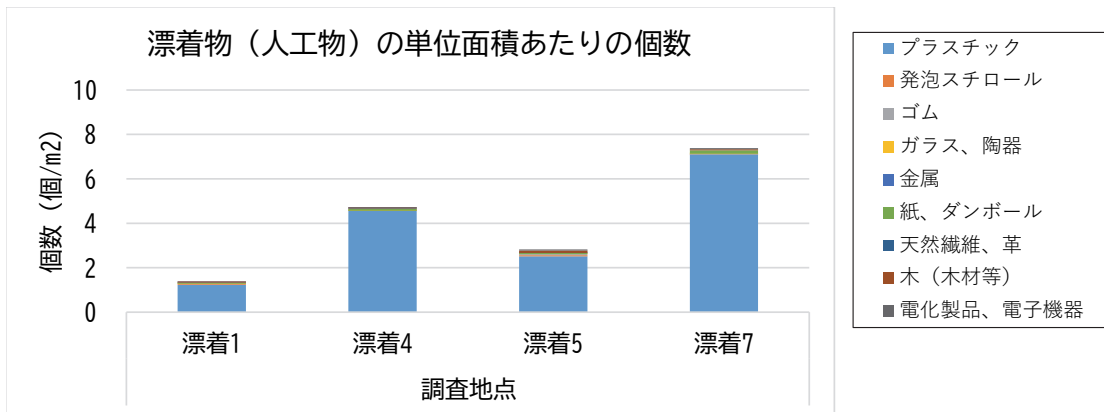
分類別にみると各地点とも「プラスチック」が最も多く、次いで「金属」が多かった。

表 3-1-2 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの個数 (個/m²)

単位：個/m²

大分類	調査地点				個数
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
プラスチック	1.24	4.54	2.52	7.05	15.35
発泡スチロール	0.03	0.00	0.04	0.01	0.08
ゴム	0.00	0.02	0.04	0.05	0.12
ガラス、陶器	0.02	0.01	0.01	0.02	0.06
金属	0.03	0.06	0.05	0.15	0.30
紙、ダンボール	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01
天然繊維、革	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
木 (木材等)	0.01	0.02	0.09	0.05	0.17
電化製品、電子機器	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01
総計	1.34	4.66	2.77	7.34	16.11

※破片状のものは含まれていない。



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

図 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの個数 (個/m²)

2) 漂着ごみの重量 (g/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m²あたりの重量 (g/m²) は、表 3-1-3、図 3-1-4 に示すとおりである。

漂着ごみの重量が最も大きかった地点は、漂着 7 で重量は 208.43g/m²、次いで漂着 5 (伊方越鯛ノ浦海岸) で重量は 195.56g/m²であった。

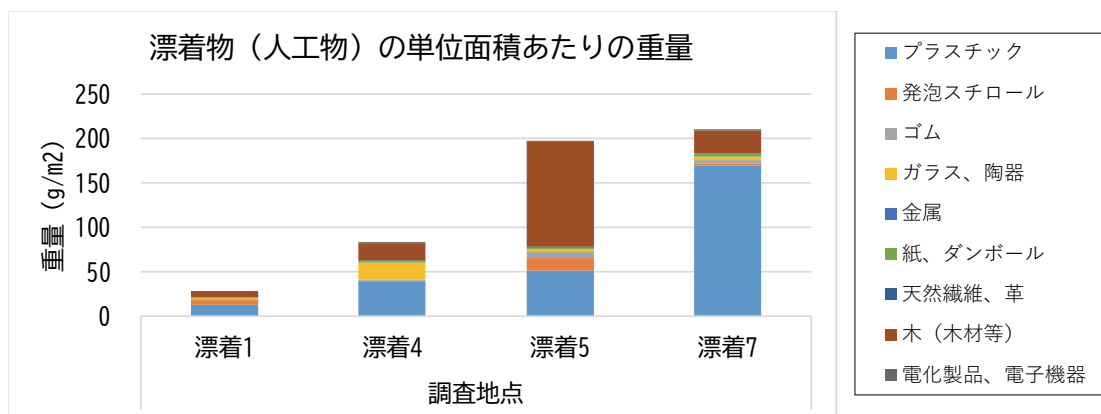
分類別にみると漂着 1 (大三島大見地区海岸) と漂着 4、漂着 7 では「プラスチック」が最も多く、漂着 5 では「木(木材等)」が最も多く、次いで「プラスチック」の順であった。

表 3-1-3 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの重量 (g/m²)

単位：g/m²

大分類	調査地点				重量
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
プラスチック	12.34	38.47	51.61	168.76	271.19
発泡スチロール	5.56	0.55	13.83	2.38	22.31
ゴム	0.41	1.37	6.88	4.65	13.31
ガラス、陶器	2.48	19.25	2.99	3.21	27.93
金属	0.91	3.27	1.95	4.35	10.48
紙、ダンボール	0.18	0.02	0.15	0.00	0.35
天然繊維、革	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
木(木材等)	5.44	19.35	117.97	24.82	167.58
電化製品、電子機器	0.00	0.21	0.18	0.26	0.66
総計	27.32	82.49	195.56	208.43	513.81

図 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの重量 (g/m²)



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

3) 漂着ごみの容積(L/m²)

回収した漂着物のうち、自然物を除く人工物の 1m²あたりの容積 (L/m²) は、表 3-1-4、図 3-1-5 に示すとおりである。

漂着ごみの容積が最も多かった地点は、漂着 5 で容積は 2.43L/m²、次いで漂着 7 で容積は 1.94 L/m²であった。

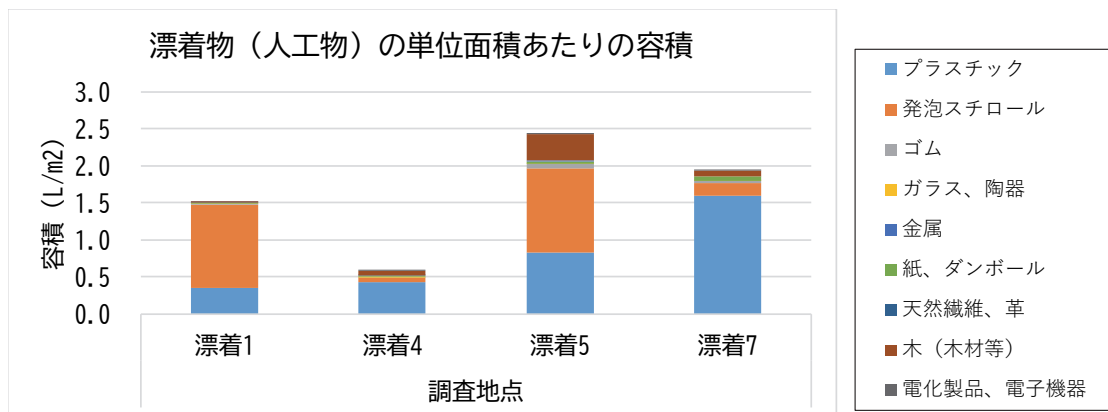
分類別にみると漂着 1 と漂着 5 では「発泡スチロール」が最も多く、次いで「プラスチック」であった。漂着 4 と漂着 7 では「プラスチック」が最も多く、次いで「発泡スチロール」であった。

表 3-1-4 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの容積 (L/m²)

単位：L/m²

大分類	地点				容積
	漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
プラスチック	0.35	0.43	0.82	1.60	3.20
発泡スチロール	1.13	0.06	1.14	0.16	2.49
ゴム	0.00	0.01	0.06	0.03	0.10
ガラス、陶器	0.00	0.02	0.01	0.01	0.04
金属	0.02	0.01	0.03	0.06	0.12
紙、ダンボール	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
天然繊維、革	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
木(木材等)	0.01	0.06	0.36	0.08	0.51
電化製品、電子機器	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
総計	1.52	0.58	2.43	1.94	6.47

図 3-1-5 各地点における漂着ごみの 1m²あたりの容積 (L/m²)



漂着1：大三島大見地区海岸

漂着4：高野川海岸

漂着5：伊方越鯛ノ浦海岸

漂着7：船越海岸

(2) プラ分類別の漂着ごみの状況

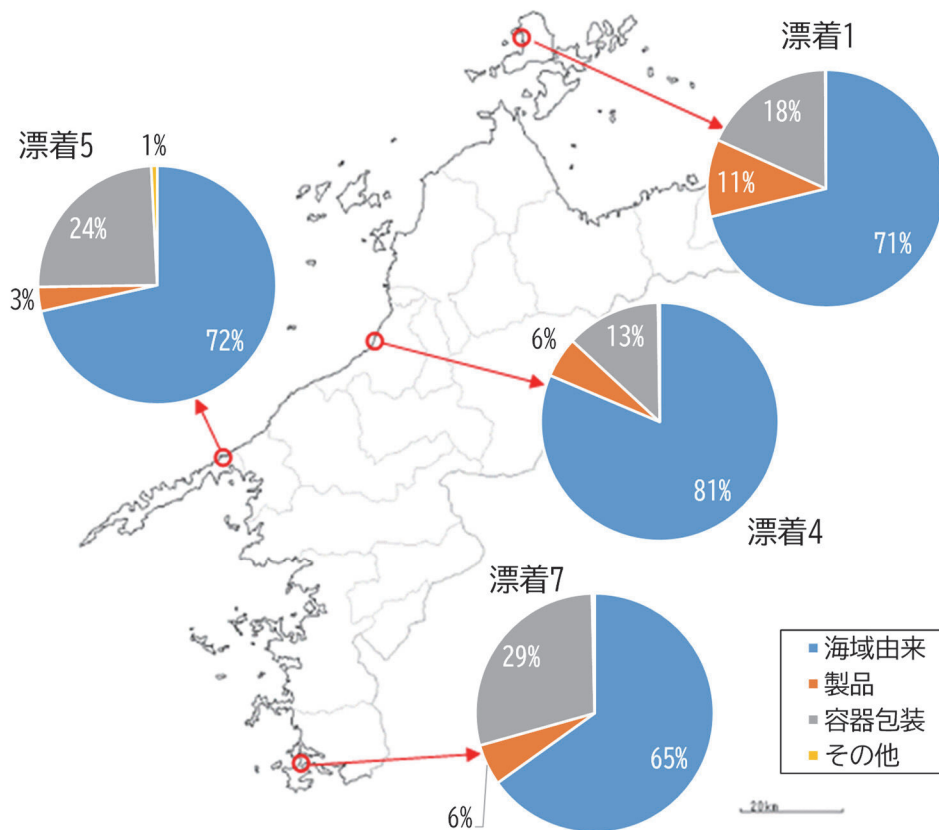
大分類の「プラスチック」と「発泡スチロール」については、「プラ分類」として「海域由来」、「製品」、「容器包装」、「その他」の4つに大別し、個数、重量、容積別に各地点の組成をとりまとめた。

1) 個数別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の個数別プラ分類別の割合は図 3-1-6 に示すとおりである。

いずれの地点も「海域由来」の割合が 65～81%と高く、次いで「容器包装」が 13～29%であった。

なお、「その他」については、破片類（「シートや袋の破片」や「硬質プラスチック破片」、「発泡スチロールの破片」）に関して、重量や容積は計測するが、個数は計測しないため、個数別の割合ではほとんど確認されない結果となっている。



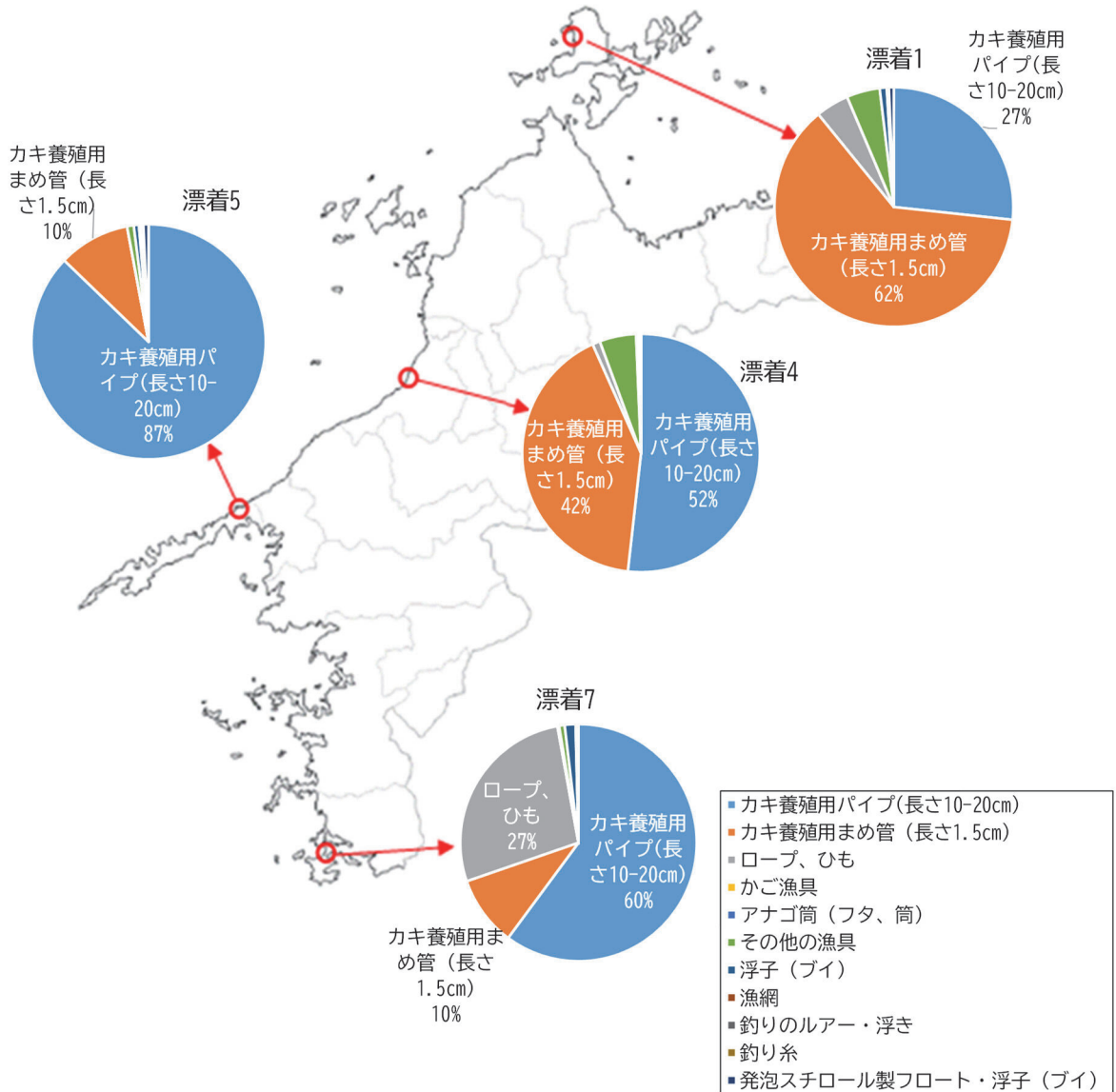
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-6 漂着ごみの個数別プラ分類の割合

a) 「海域由来」の個数別内訳

「海域由来」の個数別内訳は、図 3-1-7 に示すとおりである。

漂着 1（大三島大見地区海岸）では「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」の割合が 62%と最も高く、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 27%を占めていた。漂着 4（高野川海岸）、漂着 5（伊方越鯛ノ浦海岸）、漂着 7（船越海岸）では、いずれも、「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」の割合がそれぞれ 52%、87%、60%と最も高く、次いで漂着 4 と漂着 5 では、「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」の割合がそれぞれ 42%、10%、漂着 7 では「ロープ、ひも」が 27%であった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-7 漂着ごみの「海域由来」の個数別内訳

b) 「製品」の個数別内訳

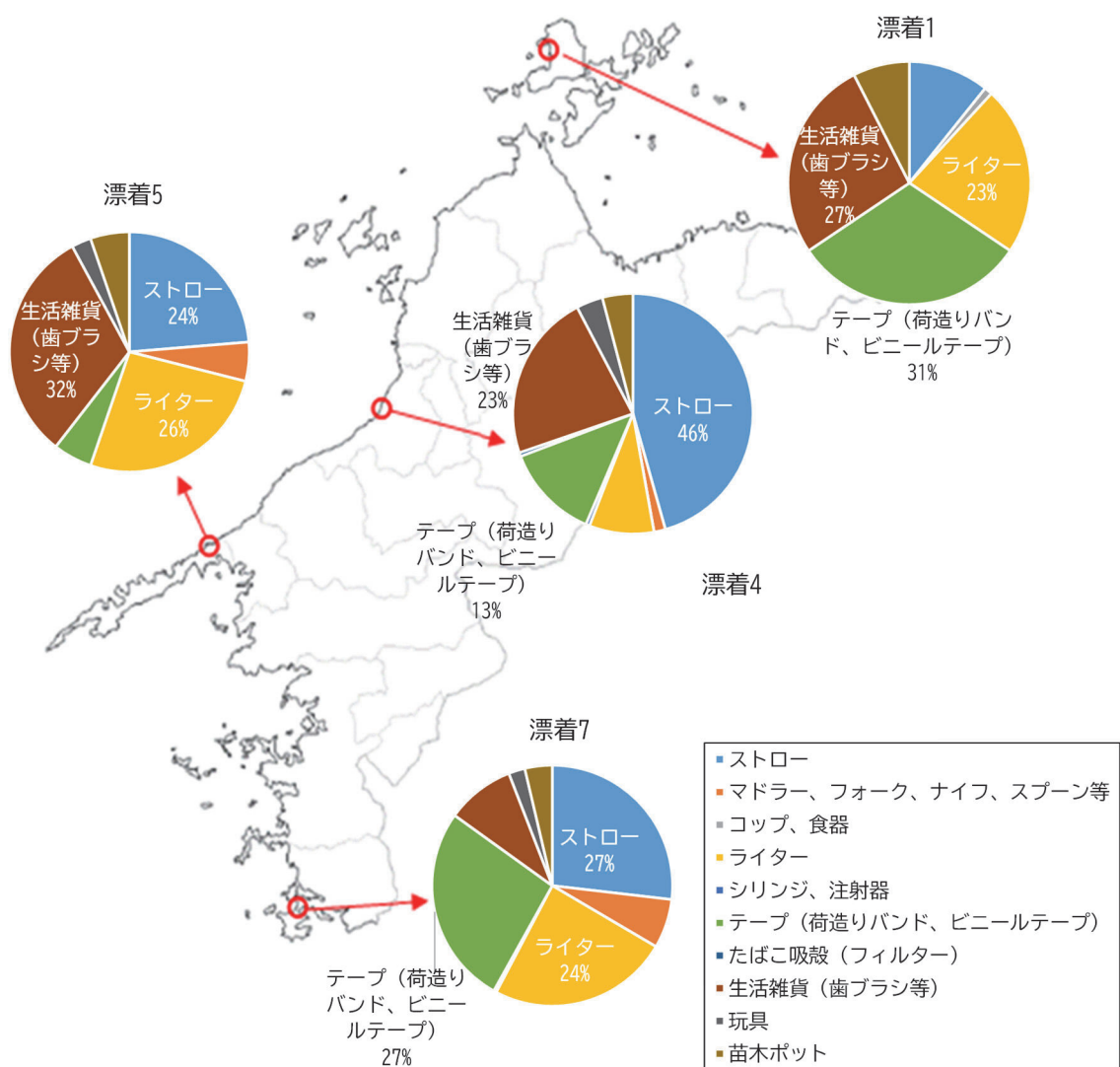
「製品」の個数別内訳は、図 3-1-8 に示すとおりである。

漂着 1 では「テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）」の割合が 31%、「生活雑貨（歯ブラシ等）」の割合が 27%、「ライター」が 23%と 3 項目の割合が概ね同じであった。

漂着 4 では「ストロー」の割合が 46%と最も高く、次いで、「生活雑貨（歯ブラシ等）」が 23%であった。

漂着 5 では「生活雑貨（歯ブラシ等）」の割合が 32%、「ライター」が 26%、「ストロー」が 24%と、3 項目の割合が概ね同じであった。

漂着 7 では「テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）」と「ストロー」の割合がそれぞれ 27%、次いで「ライター」が 24%と、3 項目の割合が概ね同じであった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

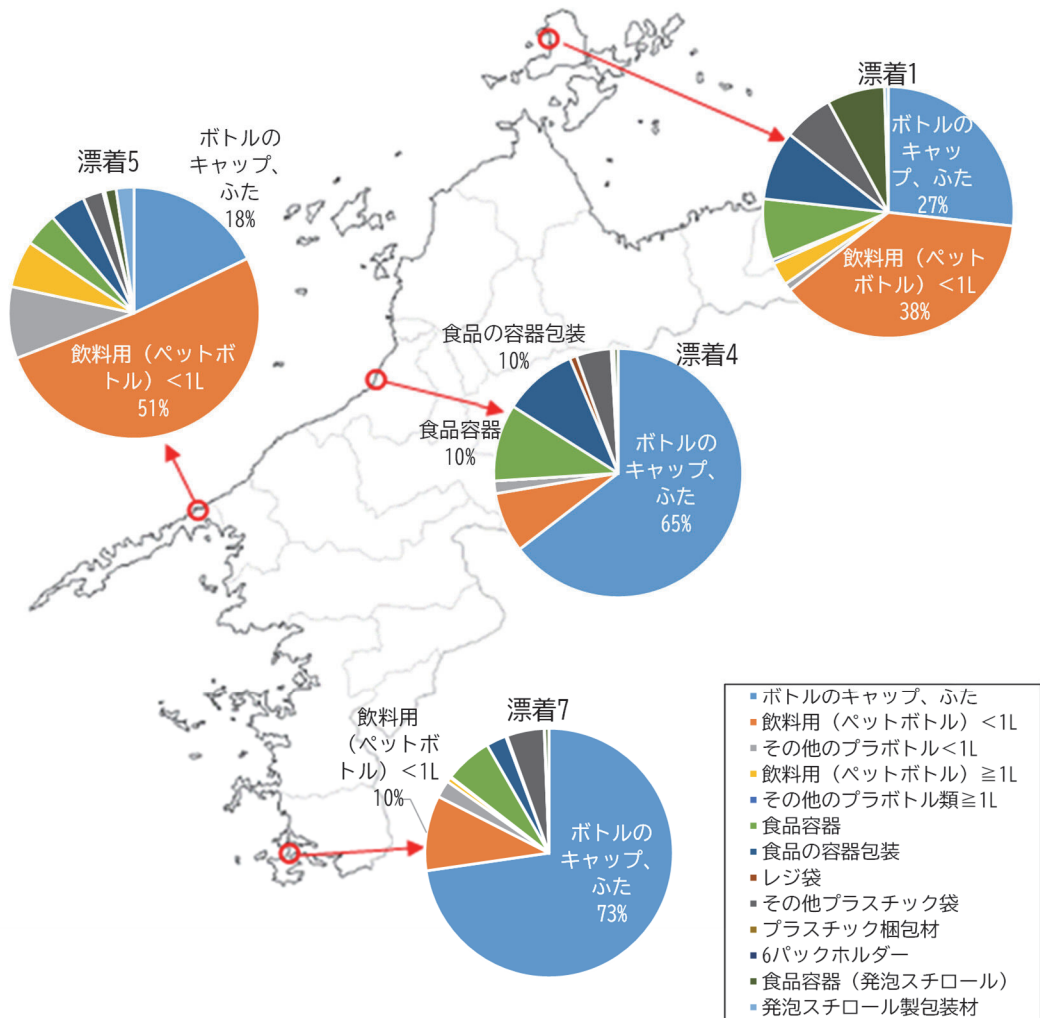
※「製品」の個数別内訳では、「その他（分類にないものを含む）」は含まれていない。

図 3-1-8 漂着ごみの「製品」の個数別内訳

c) 「容器包装」の個数別内訳

「容器包装」の個数別内訳は、図 3-1-9 に示すとおりである。

漂着 1 と漂着 5 では「飲料用（ペットボトル）<1L」の割合がそれぞれ 38%、51%と最も高く、次いで「ボトルのキャップ、ふた」がそれぞれ 27%、18%であった。漂着 4 と漂着 7 では、「ボトルのキャップ、ふた」がそれぞれ 65%、73%と最も高く、次いで、漂着 4 では「食品容器」と「食品の容器包装」がそれぞれ 10%であり、漂着 7 では「飲料用（ペットボトル）<1L」が 10%を占めていた。



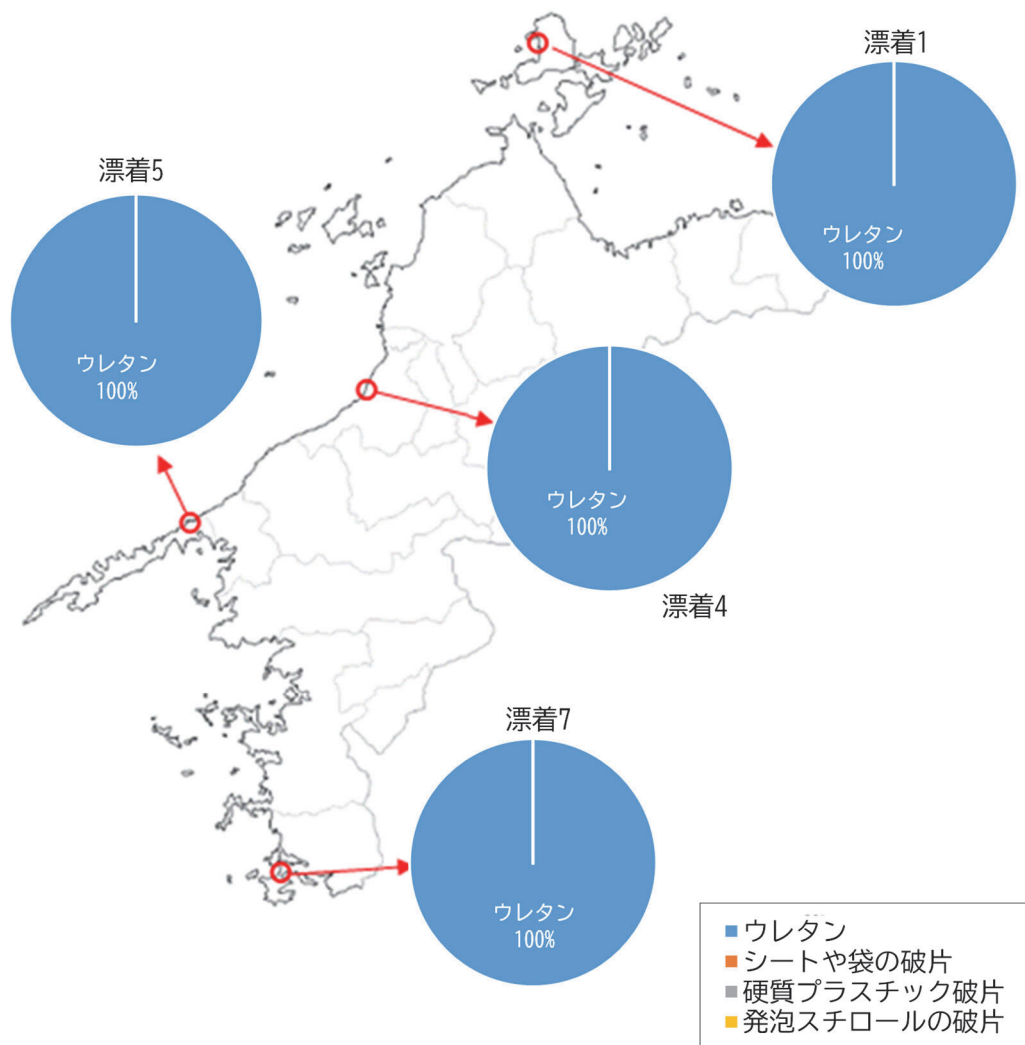
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-9 漂着ごみの「容器包装」の個数別内訳

d) 「その他」の個数別内訳

「その他」の個数別内訳は、図 3-1-9 に示すとおりである。

「その他」としては、「ウレタン」、「シートや袋の破片」、「硬質プラスチックの破片」、「発泡スチロールの破片」が該当するが、「ウレタン」以外は個数をカウントしないため、いずれの地点も 100%「ウレタン」という結果となっている。



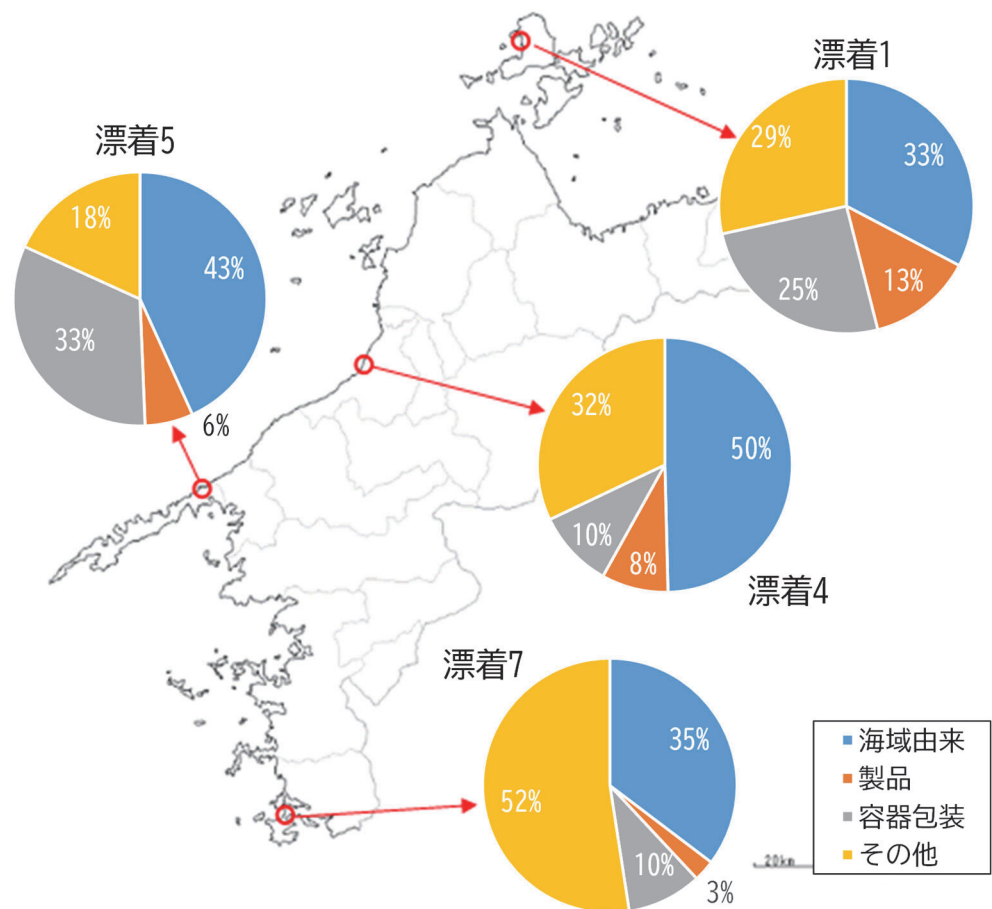
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-10 漂着ごみの「その他」の個数別内訳

2) 重量別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の重量別プラ分類の割合は図 3-1-11 に示すとおりである。

漂着 1（大三島大見地区海岸）では「海域由来」、「容器包装」、「その他」の割合がそれぞれ 30%程度でほぼ同程度であった。漂着 4（高野川海岸）、漂着 5（伊方越鯛ノ浦海岸）では、「海域由来」の割合がそれぞれ 50%、43%と最も高く、次いで漂着 4 では「その他」が 32%、漂着 5 では「容器包装」が 33%の順であった。漂着 7（船越海岸）では、「その他」の割合が 52%と最も高く、次いで「海域由来」が 35%であった。



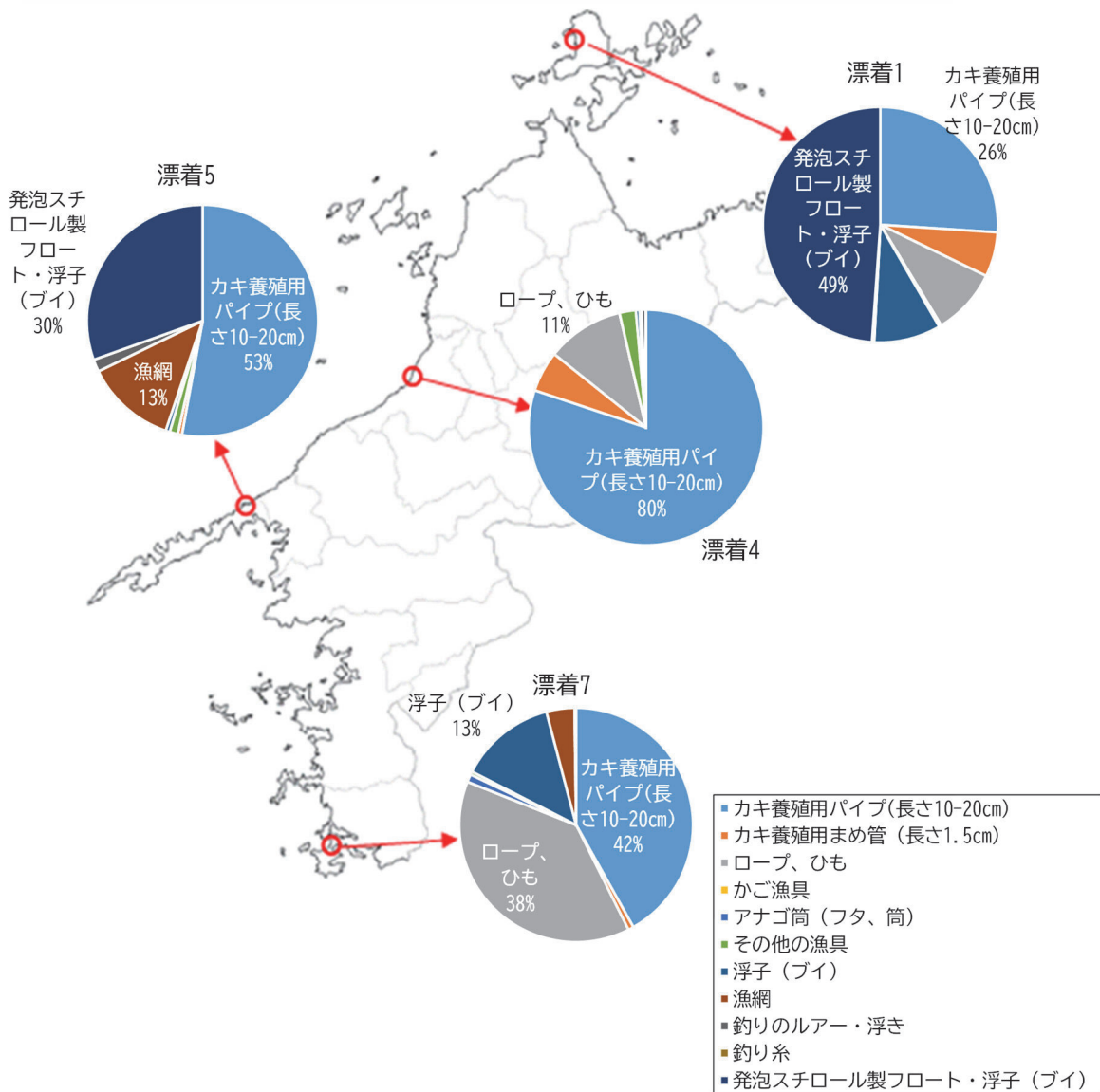
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-11 漂着ごみの重量別プラ分類の割合

a) 「海域由来」の重量別内訳

「海域由来」の重量別内訳は、図 3-1-12 に示すとおりである。

漂着 1 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合が 49%と最も高く、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 26%であった。漂着 4、漂着 5 では、いずれも「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」の割合がそれぞれ 80%、53%と高く、次いで漂着 4 では「ロープ、ひも」が 11%、漂着 5 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」が 30%であった。漂着 7 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」、「ロープ、ひも」の割合がそれぞれ 42%、38%とほぼ同程度で高く、次いで「浮子(ブイ)」が 13%であった。



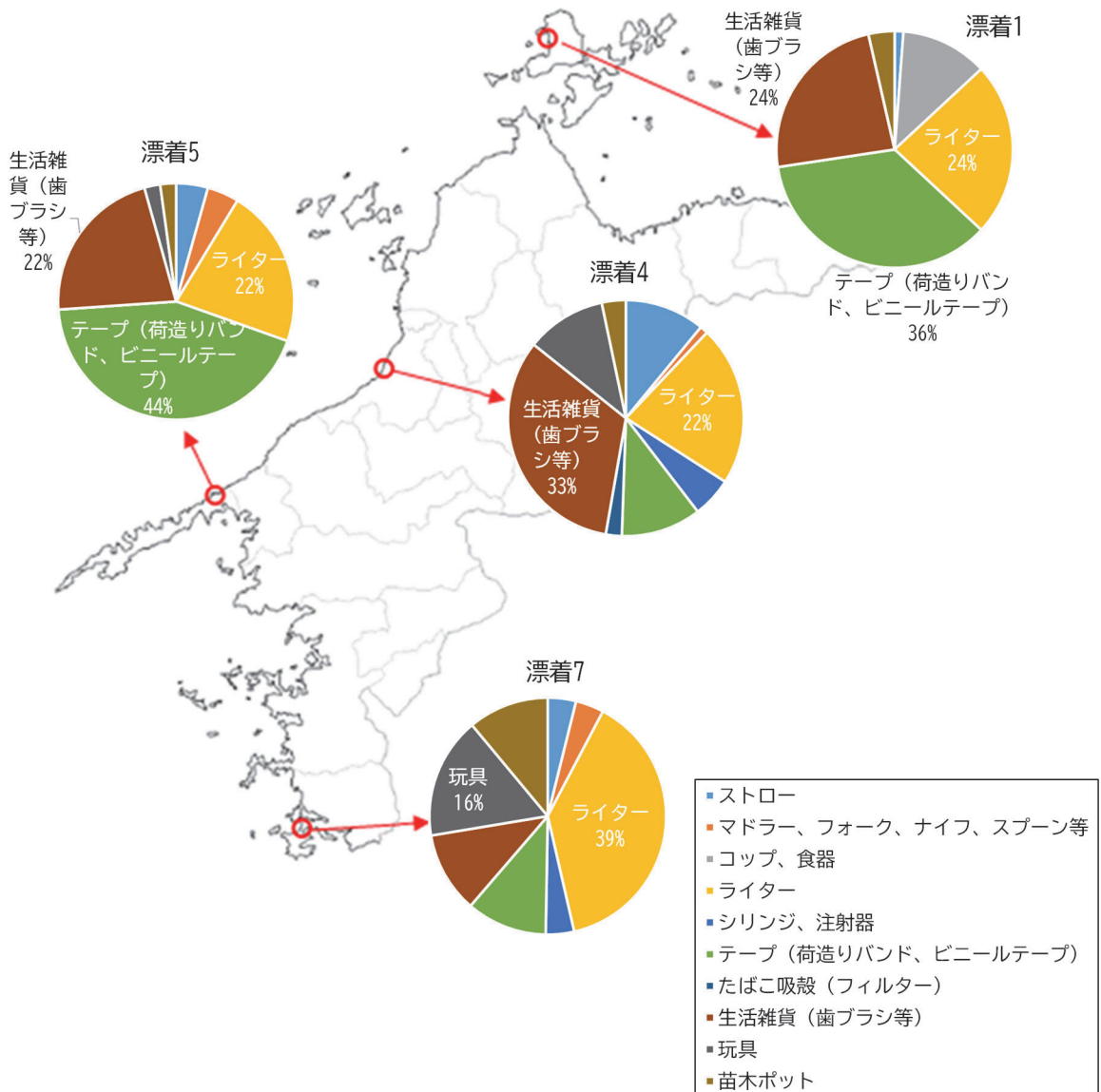
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-12 漂着ごみの「海域由来」の重量別内訳

b) 「製品」の重量別内訳

「製品」の重量別内訳は、図 3-1-13 に示すとおりである。

いずれの地点も「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」や「ライター」、
「生活雑貨(歯ブラシ等)」の割合が高く、漂着 1 と漂着 5 では「テープ(荷造りバン
ド、ビニールテープ)」の割合がそれぞれ 36%、44%と最も高く、次いで「生活雑貨
(歯ブラシ等)」、「ライター」の順であった。漂着 4 では「生活雑貨(歯ブラシ等)」
の割合が 33%と最も高く、次いで「ライター」が 22%であった。漂着 7 では「ライタ
ー」の割合が 39%と最も高く、次いで「玩具」が 16%を占めていた。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

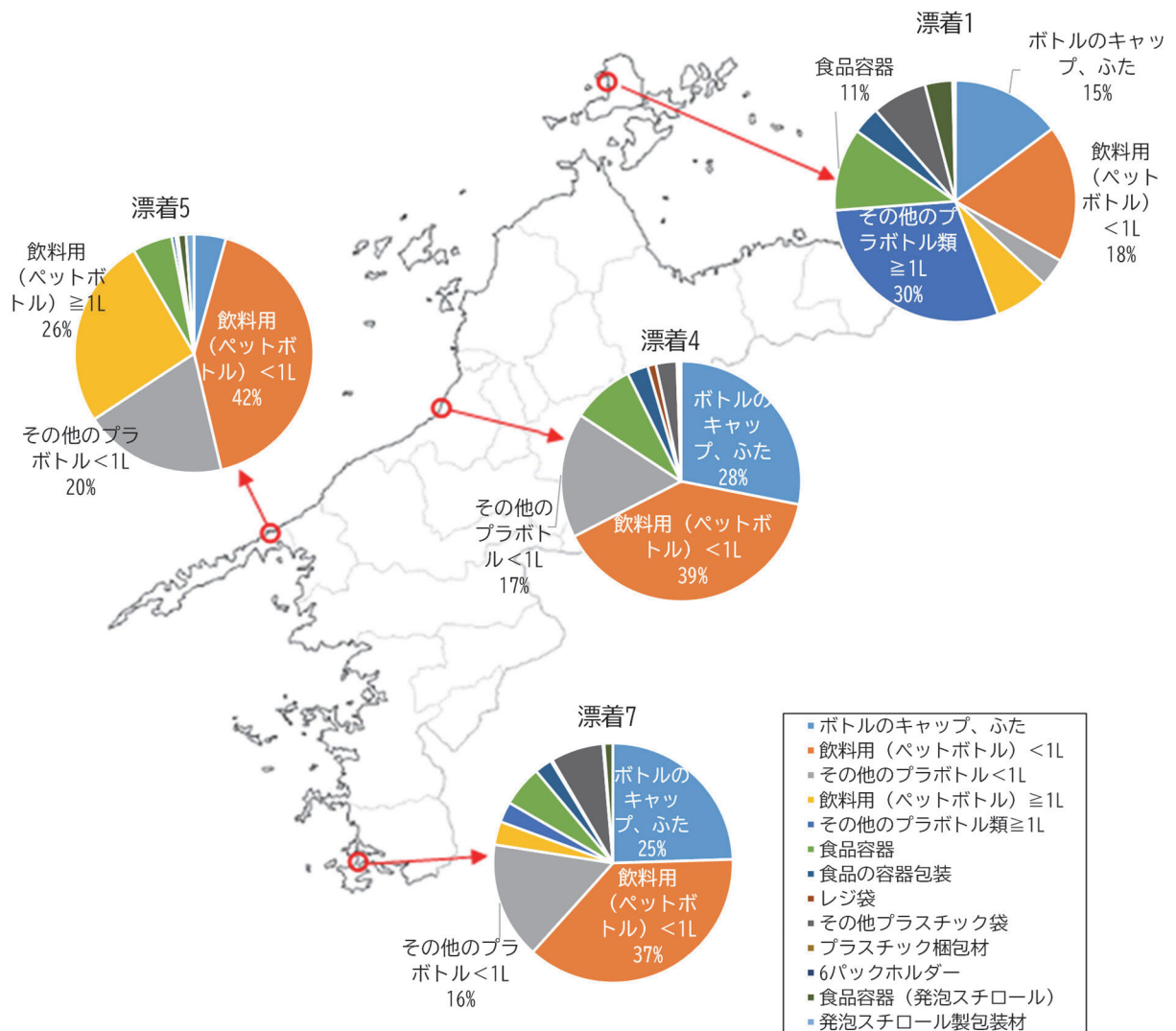
※「製品」の重量別内訳では、「その他(分類にないものを含む)」は含まれていない。

図 3-1-13 漂着ごみの「製品」の重量別内訳

c) 「容器包装」の重量別内訳

「容器包装」の重量別内訳は、図 3-1-14 に示すとおりである。

漂着 1 では「その他のプラボトル類 $\geq 1L$ 」の割合が 30%と最も多く、次いで「飲料用(ペットボトル) $< 1L$ 」が 18%、「ボトルのキャップ、ふた」が 15%であった。漂着 4 と漂着 5、漂着 7 では「飲料用(ペットボトル) $< 1L$ 」の割合がそれぞれ 39%、42%、37%と最も高く、次いで漂着 4 では「ボトルのキャップ、ふた」が 28%、「その他のプラボトル類 $< 1L$ 」が 17%、漂着 5 では「飲料用(ペットボトル) $\geq 1L$ 」が 26%、「その他のプラボトル類 $< 1L$ 」が 20%、漂着 7 では「ボトルのキャップ、ふた」が 25%、「その他のプラボトル類 $< 1L$ 」が 16%であった。



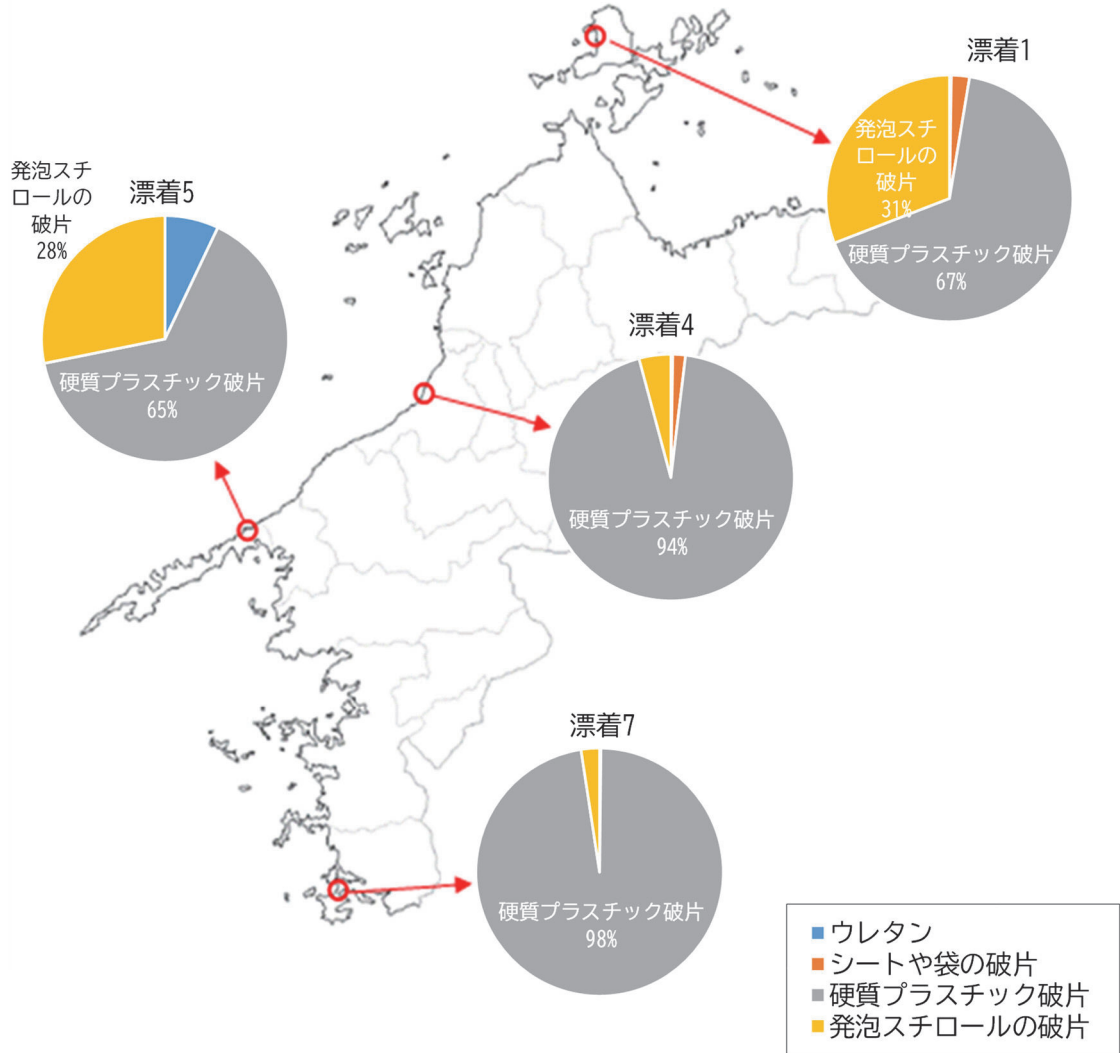
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-14 漂着ごみの「容器包装」の重量別内訳

d) 「その他」の重量別内訳

「その他」の重量別内訳は、図 3-1-15 に示すとおりである。

いずれの地点も「硬質プラスチックの破片」の割合が最も高く、漂着 7 で 98%、漂着 4 で 94%であった。漂着 1 と漂着 5 では、次いで「発泡スチロールの破片」がそれぞれ 31%、28%であった。



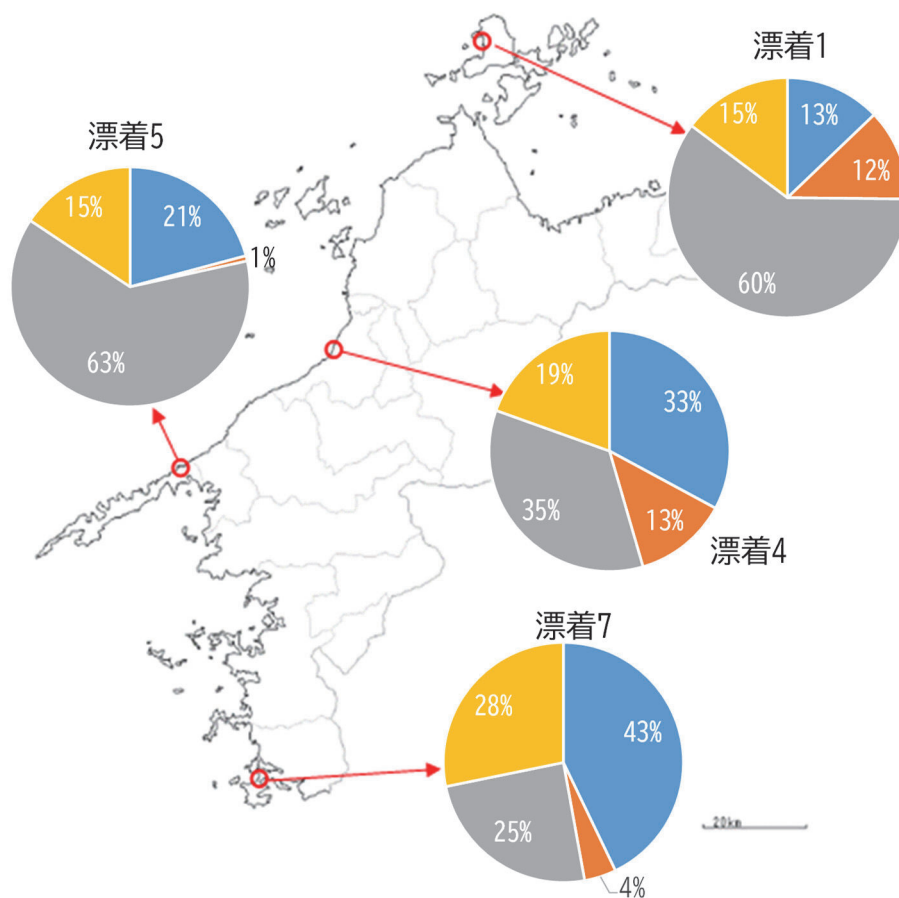
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-15 漂着ごみの「その他」の重量別内訳

3) 容積別プラ分類の割合

漂着ごみ（プラスチック、発泡スチロール）の容積別プラ分類の割合は、図3-1-16に示すとおりである。

漂着1（大三島大見地区海岸）と漂着5（伊方越鯛ノ浦海岸）では、「容器包装」の割合がそれぞれ60%、63%と最も高く、次いで、漂着1では、「海域由来」、「製品」、「その他」がいずれも12~15%とほぼ同程度であり、漂着5では、「海域由来」が21%の順であった。漂着4（高野川海岸）では、「容器包装」の割合が35%、「海域由来」が33%と最も高かった。漂着7（船越海岸）では、「海域由来」の割合が43%と最も高く、次いで「容器包装」が25%、「その他」が28%とほぼ同程度であった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

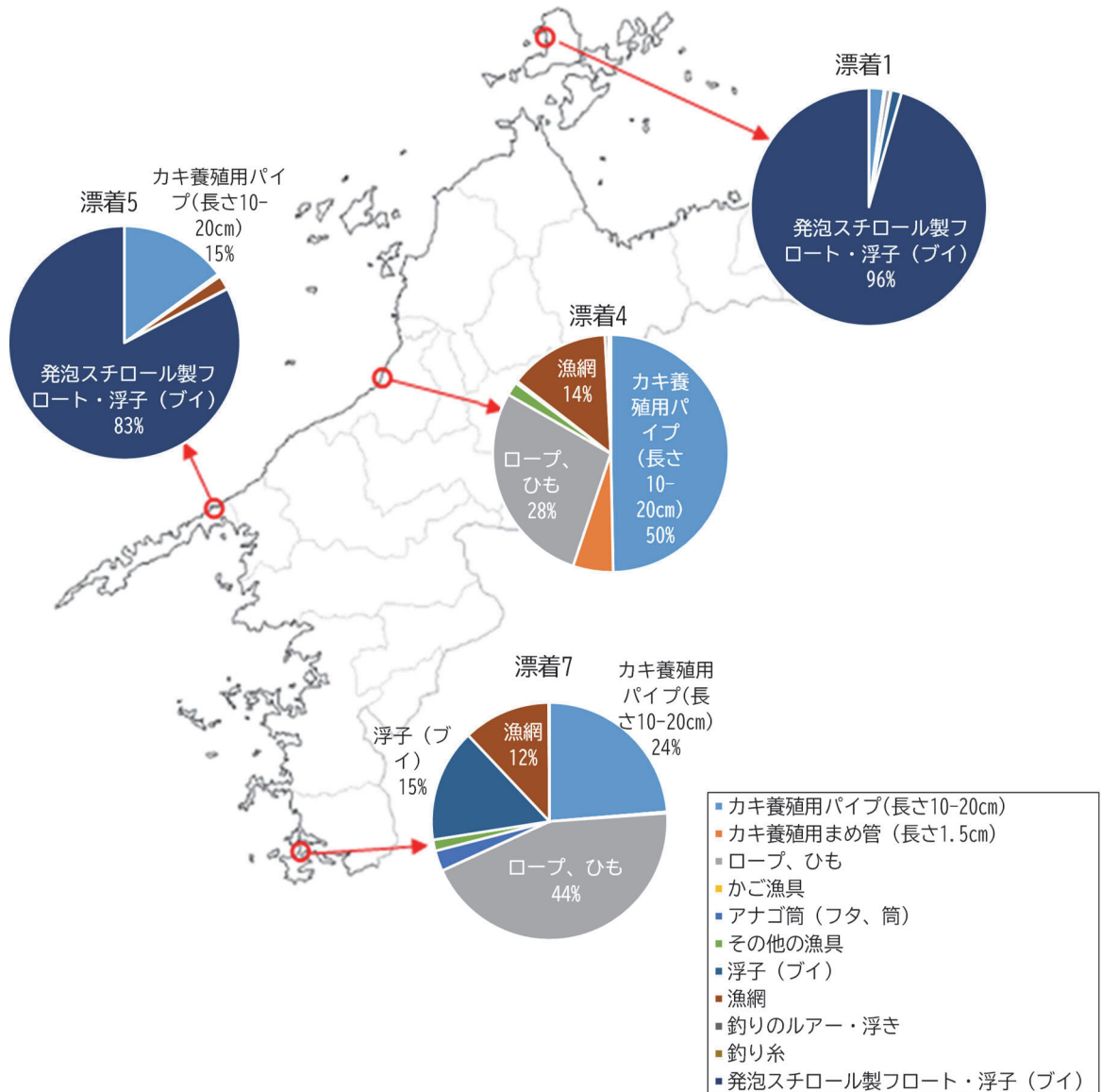
図3-1-16 漂着ごみの容積別プラ分類の割合

a) 「海域由来」の容積別内訳

「海域由来」の容積別内訳は、図 3-1-17 に示すとおりである。

漂着 1、漂着 5 では「発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合がそれぞれ 96%、83%と最も高かった。

漂着 4 では「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」の割合が 50%と最も高く、次いで「ロープ、ひも」が 28%、「漁網」が 14%であった。漂着 7 では「ロープ、ひも」の割合が 44%と最も高く、次いで「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 24%、「浮子(ブイ)」が 15%であった。



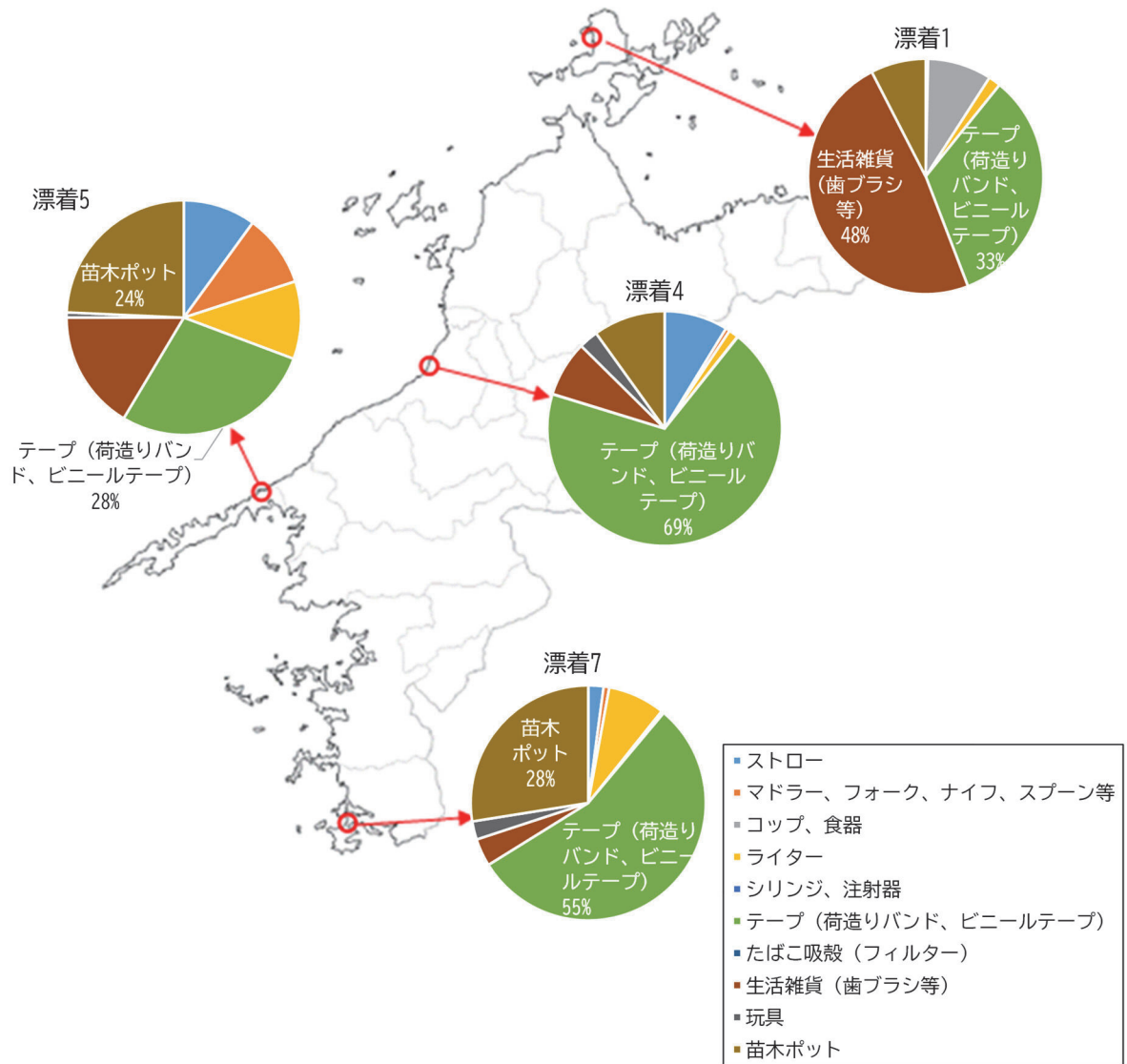
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-17 漂着ごみの「海域由来」の容積別内訳

b) 「製品」の容積別内訳

「製品」の容積別内訳は、図 3-1-18 に示すとおりである。

漂着 1 では「生活雑貨(歯ブラシ等)」の割合が 40%と最も高く、次いで「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」が 33%であった。漂着 4 では、「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」の割合が 69 %と最も高かった。漂着 5 では、「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」の割合が 28%、「苗木ポット」が 24%であった。漂着 7 では「テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)」の割合が 55%と最も高く、次いで「苗木ポット」が 28%であった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

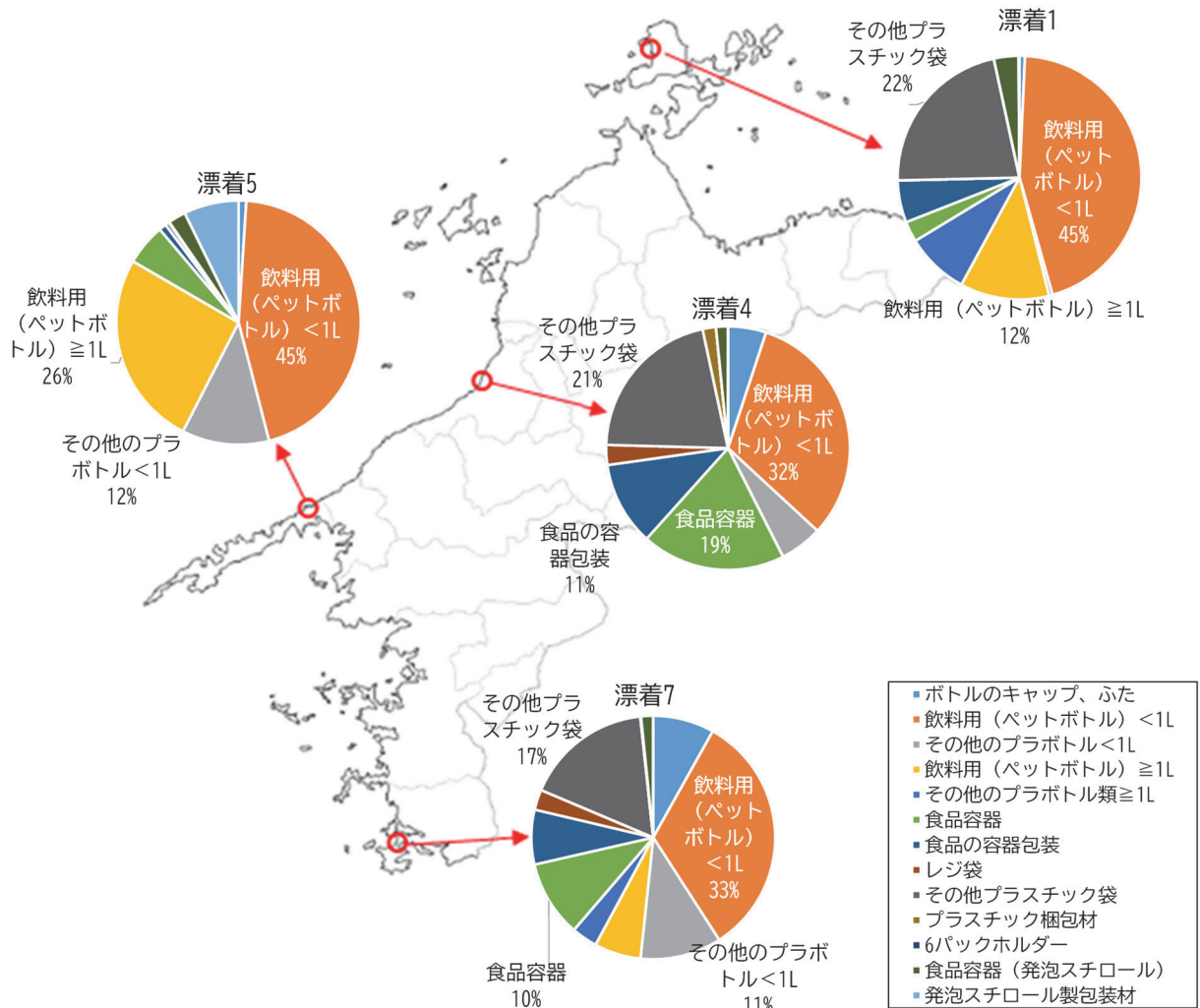
※ 「製品」の容積別内訳では、「その他(分類にないものを含む)」は含まれていない。

図 3-1-18 漂着ごみの「製品」の容積別内訳

c) 「容器包装」の容積別内訳

「容器包装」の容積別内訳は、図 3-1-19 に示すとおりである。

いずれの地点も「飲料用(ペットボトル)<1L」の割合がそれぞれ 45%、32%、45%、33%と最も高かった。次いで、漂着 1、漂着 4、漂着 7 では「その他プラスチック袋」の割合がそれぞれ 22%、21%、17%であった。漂着 5 では「飲料用(ペットボトル)≥1L」の割合が 26%、「その他のプラボトル類<1L」が 12%であった。



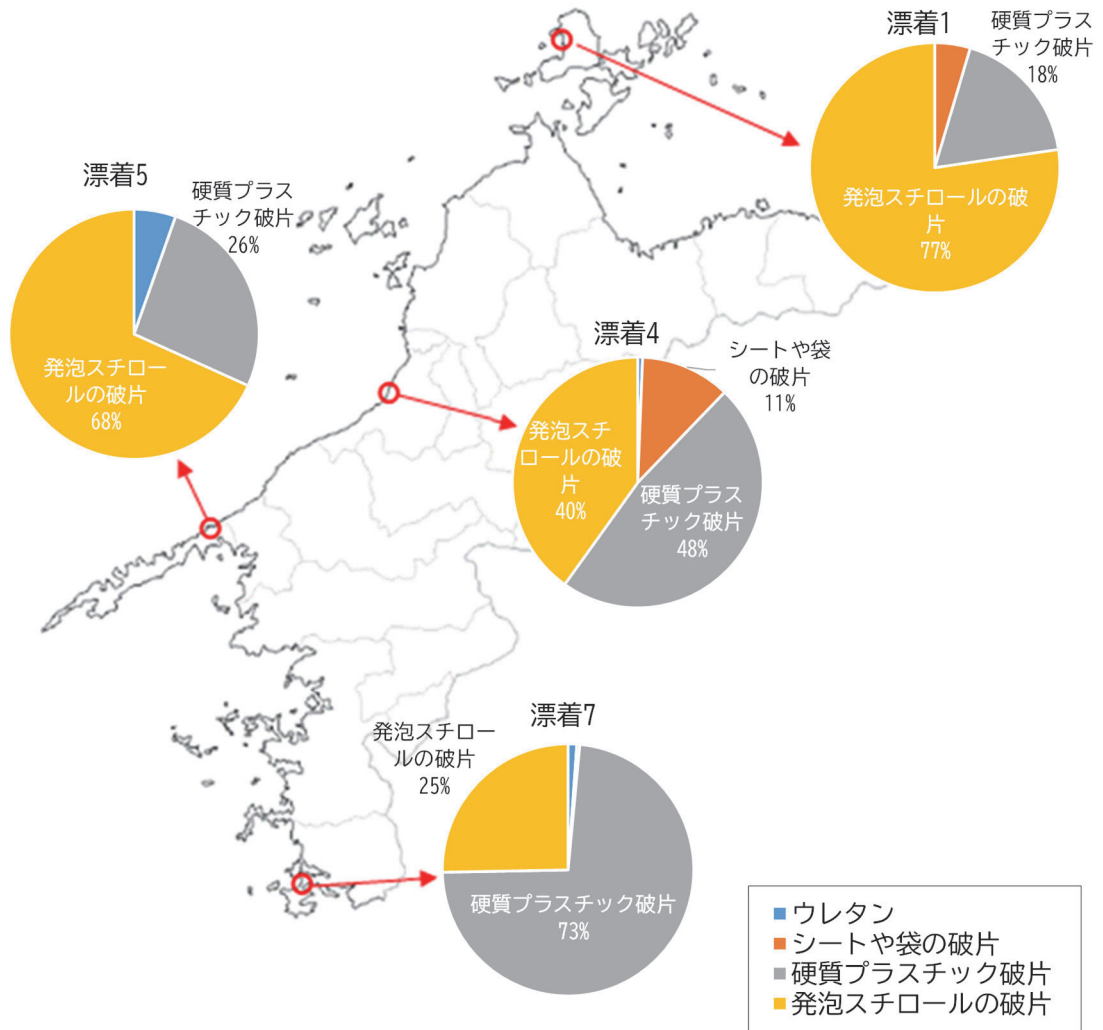
出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-19 漂着ごみの「容器包装」の容積別内訳

d) 「その他」の容積別内訳

「その他」の容積別内訳は、図 3-1-20 に示すとおりである。

漂着 1、漂着 5 では「発泡スチロールの破片」の割合がそれぞれ 77%、68%と最も高く、次いで「硬質プラスチックの破片」がそれぞれ 18%、26%であった。漂着 4 と漂着 7 では「硬質プラスチックの破片」の割合がそれぞれ 48%、73%と最も高く、次いで「発泡スチロールの破片」がそれぞれ 40%、25%であった。



出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) に加筆

図 3-1-20 漂着ごみの「その他」の容積別内訳

(3) ペットボトル、キャップ、浮子の言語標記等について

回収したごみのうち、「ペットボトル」、「ボトルのキャップ」、「浮子」については、ガイドラインに従い、言語の特定を行い、図 3-1-21、表 3-1-5 にまとめた。

1) ペットボトル

ペットボトルについては、合計 835 個回収し、製造国については、「日本」が 303 個 (36%) であり、「日本以外」が 22 個 (3%)、不明が 510 個 (61%) であった。

「日本以外」の内訳は「中国」が 11 個、「台湾」が 4 個、「中国・台湾」が 3 個、「韓国」が 2 個、その他、「シンガポール」と「ベトナム」がそれぞれ 1 個であった。

調査地点別にみると、「日本」以外のペットボトルは、漂着 7 (船越海岸) で 17 個、漂着 5 (伊方越鯛ノ浦海岸) で 5 個が確認され、漂着 1 (大三島大見地区海岸) と漂着 4 (高野川海岸) では、確認されなかった。

2) ボトルのキャップ

ボトルのキャップについては合計 815 個回収し、製造国については、「日本」が 276 個 (34%) であり、「日本以外」が 36 個 (4%)、不明が 503 個 (62%) であった。「日本以外」の内訳は全て「中国・台湾」であった。

調査地点別にみると、「日本」以外のキャップは、漂着 7 で 35 個、漂着 1 で 1 個が確認され、漂着 4 と漂着 5 では確認されなかった。

3) 浮子

浮子については、合計 72 個回収し、製造国については、「日本」が 3 個 (4%) であり、「日本以外」が 30 個 (42%)、不明が 39 個 (54%) であった。「日本以外」の内訳は全て「中国・台湾」であった。

調査地点別にみると、「日本」以外の浮子は、漂着 7 で 30 個が確認され、漂着 1 と漂着 4 と漂着 5 では確認されなかった。

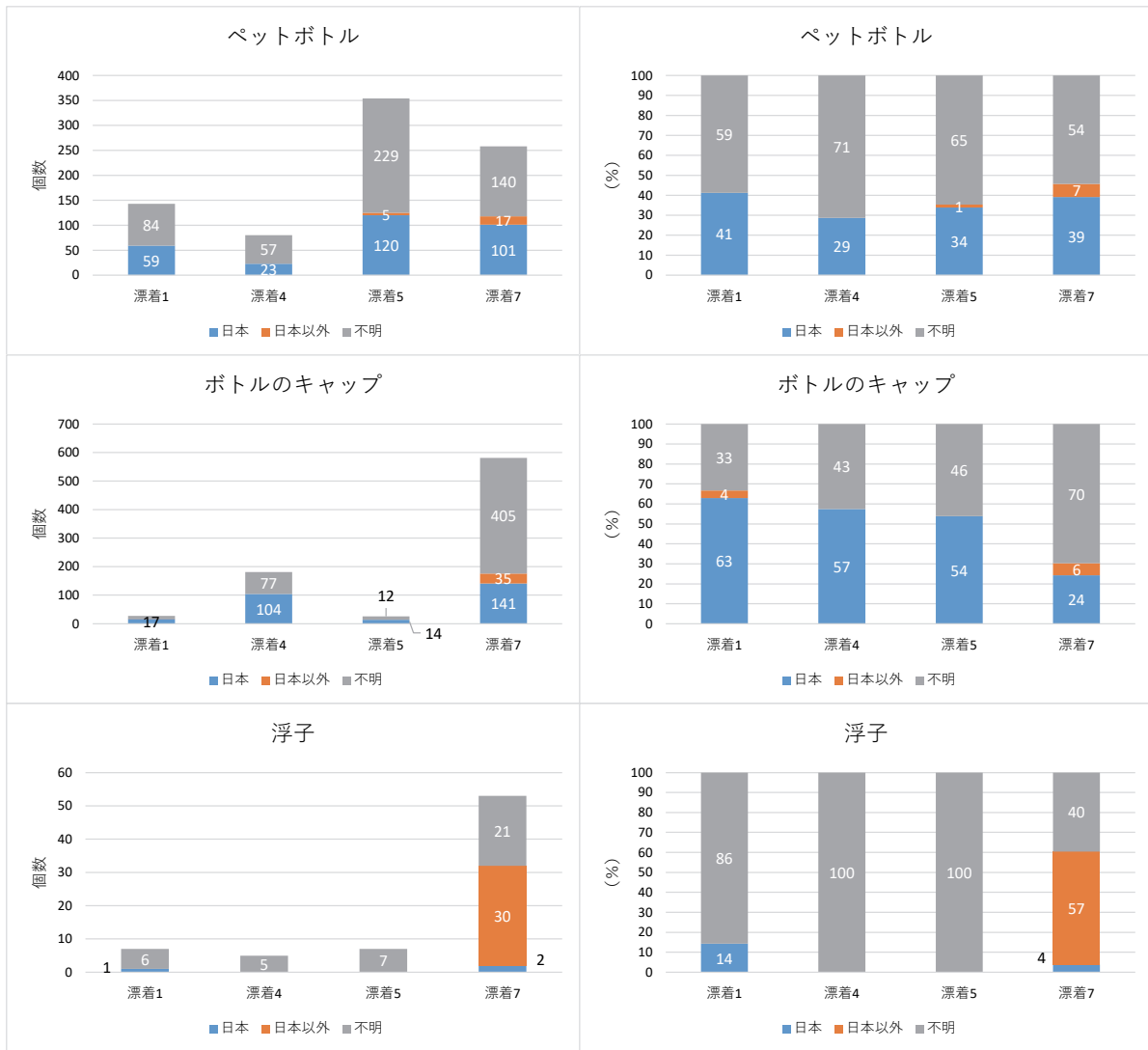


図 3-1-21 言語標記による区分



写真 3-1-1 製造国が日本以外の漂着ごみ

表 3-1-5 言語標記による区分

品目：ペットボトル

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
日本	バーコード (49 or 45)	21 (15)	6 (8)	42 (12)	58 (22)	127 (15)
	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	38 (27)	17 (21)	78 (22)	43 (17)	176 (21)
小計 (日本)		59 (41)	23 (29)	120 (34)	101 (39)	303 (36)
中国	バーコード (69)			2 (1)	9 (3)	11 (1)
台湾	バーコード (471)				4 (2)	4 (0)
中国・台湾	言語標記 (漢字)			2 (1)	1 (0)	3 (0)
韓国	バーコード (880)				1 (0)	1 (0)
	言語標記 (ハングル)			1 (0)		1 (0)
	合計	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
ロシア	バーコード (46)					0 (0)
	言語標記 (ロシア語)					0 (0)
	合計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
シンガポール	バーコード (888)				1 (0)	1 (0)
ベトナム	バーコード (893)				1 (0)	1 (0)
小計 (日本以外)		0 (0)	0 (0)	5 (1)	17 (7)	22 (3)
小計 (製造国判明)		59 (41)	23 (29)	125 (35)	118 (46)	325 (39)
不明	(バーコード読取れず)	61 (43)	37 (46)	155 (44)	92 (36)	345 (41)
	言語標記 (文字読取れず)	23 (16)	20 (25)	74 (21)	48 (19)	165 (20)
小計 (不明)		84 (59)	57 (71)	229 (65)	140 (54)	510 (61)
合計		143 (100)	80 (100)	354 (100)	258 (100)	835 (100)

※ () 内は比率を示す。

品目：ボトルのキャップ

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
日本	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	17 (63)	104 (57)	14 (54)	141 (24)	276 (34)
小計 (日本)		17 (63)	104 (57)	14 (54)	141 (24)	276 (34)
中国・台湾	言語標記 (漢字)	1 (4)			35 (6)	36 (4)
韓国	言語標記 (ハングル)					0 (0)
ロシア	言語標記 (ロシア語)					0 (0)
小計 (日本以外)		1 (4)	0 (0)	0 (0)	35 (6)	36 (4)
小計 (製造国判明)		18 (67)	104 (57)	14 (54)	176 (30)	312 (38)
不明	言語標記 (文字読取れず)	9 (33)	77 (43)	12 (46)	405 (70)	503 (62)
	(表記言語) 英語					0 (0)
	(表記言語) フランス					0 (0)
	(表記言語) 何語かわからず					0 (0)
小計 (不明)		9 (33)	77 (43)	12 (46)	405 (70)	503 (62)
合計		27 (100)	181 (100)	26 (100)	581 (100)	815 (100)

※ () 内は比率を示す。

品目：浮子

単位：個数

製造国	区別方法	調査地点				
		漂着1	漂着4	漂着5	漂着7	総計
日本	言語標記 (漢字, ひらがな, カタカナ)	1 (14)			2 (4)	3 (4)
小計 (日本)		1 (14)	0 (0)	0 (0)	2 (4)	3 (4)
中国・台湾	言語標記 (漢字)				30 (57)	30 (42)
韓国	言語標記 (ハングル)					0 (0)
ロシア	言語標記 (ロシア語)					0 (0)
小計 (日本以外)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (5)	30 (4)
小計 (製造国判明)		1 (14)	0 (0)	0 (0)	32 (60)	33 (46)
不明	言語標記 (文字読取れず)	6 (86)	5 (100)	7 (100)	20 (38)	38 (53)
	(表記言語) 英語				1 (2)	1 (1)
小計 (不明)		6 (86)	5 (100)	7 (100)	21 (40)	39 (54)
合計		7 (100)	5 (100)	7 (100)	53 (100)	72 (100)

※ () 内は比率を示す。

1.2. 各調査地点の特徴

(1) 漂着1 (大三島大見地区海岸)

大三島大見地区海岸では、他の地点に比べて、ごみの個数、重量とも最も少なく、大分類で見ると、個数、重量では「プラスチック」の割合が最も高かった。

プラ分類（プラスチック、発泡スチロール）に着目してみると、個数では「海域由来」が71%を占めており、そのうち「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」と「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が89%を占めていた。容積で見ると「容器包装」が60%を占めており、そのうち「飲料用(ペットボトル)<1L」が45%を占めていた。

当調査地点では、発泡スチロール製フロートが5個確認されたものの、それらは海岸の中の岸側一か所にまとめて置かれており、清掃作業等が行われているものと考えられる。

製造国が日本以外のごみについてみると、言語標記が漢字である「中国・台湾」のキャップが1個確認されている。



写真 1-2(1) 回収ごみの状況 (漂着1)

(1) 漂着 4 (高野川海岸)

高野川海岸では、4 地点のうち個数では 2 番目に多かった。大分類でみると、個数、容積では「プラスチック」の割合が最も高く、重量では「プラスチック」以外にも「木(木材等)」や「ガラス、陶器」の割合も比較的高かった。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数では「海域由来」が 81%を占めており、そのうち「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」と「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 94%を占めていた。容積でみると「容器包装」が 35%を占めており、そのうち「飲料用(ペットボトル)<1L」が 32%を占めていた。

当調査地点では、「木(木材等)」については、漁船の部品と思われる木材が確認されており、海岸に放置されている漁船等に関するものと考えられる、また、屋根瓦やタイルの破片が他の地点に比べて多く回収されたが、これらは人為的なものと考えられる。

言語標記を確認した「ペットボトル」、「ボトルのキャップ」、「浮子」に、製造国が日本以外のものは確認されなかった。



回収された瓦やタイルの破片



写真 1-2(2) 回収ごみの状況(漂着 4)

(2) 漂着 5 (伊方越鯛ノ浦海岸)

伊方越鯛ノ浦海岸では、4 地点のうち容積では最も多く、重量でも 2 番目に多かった。大分類でみると、個数では「プラスチック」の割合が最も高く、重量では「木(木材等)」が、容積では「発泡スチロール」の割合が高かった。

プラ分類(プラスチック、発泡スチロール)に着目してみると、個数では「海域由来」が 72%を占めており、そのうち「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」と「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 97%を占めていた。容積でみると「容器包装」が 63%を占めており、そのうち「ペットボトル(1L 未満+1L 以上)」が 71%を占めていた。

当調査地点では、「木(木材等)」については、角が丸まったものも多く、年数が経過したものが多くみられ、「発泡スチロール」については、漁業用のブイ以外に、魚を入れるトロ箱の破片等が確認された。

製造国が日本以外のごみについてみると、「中国」や「韓国」等のペットボトルが合計 5 個確認されている。



写真 1-2(3) 回収ごみの状況(漂着 5)

(3) 漂着 7 (船越海岸)

船越海岸では、ごみの個数、重量とも 4 地点のうち最も多く、容積も 4 地点のうち 2 番目に多かった。大分類でみると、個数、重量、容積とも「プラスチック」の割合が最も高かった。

プラ分類（プラスチック、発泡スチロール）に着目してみると、個数では「海域由来」が 65%を占めており、そのうち「カキ養殖用まめ管(長さ 1.5cm)」と「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 70%を占めていた。また、他の調査地点と異なり「ロープ、ひも」が 27%を占めていた。重量でみると、「その他」が 52%を占めており、そのうち 98%が「硬質プラスチック破片」であった。容積でみると「海域由来」が 43%を占めており、そのうち「カキ養殖用パイプ(長さ 10~20cm)」が 24%、「ロープ、ひも」が 44%を占めており、他の地点に比べて「ロープ、ひも」の割合が高かった。

製造国が日本以外のごみについてみると、「中国」、「台湾」、「韓国」、「シンガポール」、「ベトナム」で製造されたペットボトルが合計 17 個、「中国・台湾」で製造された浮子が 30 個認されて、他の調査地点と比べて最も多かった。



製造国「シンガポール」のペットボトル



写真 1-2(4) 回収ごみの状況 (漂着 7)